

2016年度『蔵前特別賞』・『蔵前ベンチャー賞』 授与式・受賞者記念講演会

一般社団法人蔵前工業会はベンチャーの育成を目的に2007年度から『蔵前ベンチャー賞』を設置しました。今年で10回目になります。東工大・蔵前の有望ベンチャーの発掘・表彰を行ってきました。また2009年度から『蔵前特別賞』を設置し、社会に顕著に貢献した個人および企業・団体を表彰しています。



前列左より受賞者 大隅 良典氏 代理 黒澤 広一氏、道家 達将氏、土屋 清美氏、藤代 真一氏、中田 周一氏、
今城 康隆氏
後列左より 谷 明人 経産省技術総括審議官、三島 良直 東工科大学長、石田 義雄 理事長

1. 『蔵前特別賞』・『蔵前ベンチャー賞』授与式

2016年12月1日(木) 東工大デジタル多目的ホールで行われました。[参加者110名(うち学生13名)]
大隅栄誉教授はノーベル賞授与式準備のため欠席されました。東工大総務部長の黒澤 広一氏が代理出席。

(1) 2016年度蔵前特別賞

受賞者	受賞理由
<p>大隅 良典氏 東工大栄誉教授 1967年東京大学教養学部卒 1972年博士課程単位取得、1974年理学博士 2009年東工大特任教授、2014年栄誉教授 2015年文化功労者、2016年文化勲章受章 2016年ノーベル生理学・医学賞受賞</p>	<p>細胞が自らのタンパク質を分解して再利用する「オートファジー」(自食作用)の仕組みを解明した。この仕組みは、細胞で構成されるあらゆる生物における課題に新たな道を切り開き、ヒトにおいてもがんや神経疾患等に対するこれまでと異なった治療への道が期待されるなど、新たな医療分野へ大きく貢献するものである。</p>
<p>道家 達将氏 東工大名誉教授、東工大博物館特命教授 1951年名古屋大学化学科卒 1973年東工大教授 1989年東工大名誉教授</p>	<p>江戸後期の植物学者、化学者宇田川榕菴(うだがわようあん)や古代製鉄の科学史、技術史研究と、益子焼やフェライト、水晶振動子、光ファイバーなど東工大の誇るべき研究成果を広く世界に広報・啓蒙しIEEEによる遺産認定や著名な学術賞等をこれらの研究者にもたらすことに大きく貢献した。</p>

(2) 2016年度蔵前ベンチャー賞

企業名, 受賞者	受賞理由
㈱Sound-F 代表取締役社長（創業者）土屋 清美氏 1982年応用物理卒 2006年創業	金融とITの専門知識を活用し金融ソリューションの基盤ソフトの開発に着実な事業展開を行っている。フィンテックの新サービスを次々に生み出す新しい時代をリードするベンチャーとして活躍が期待される。
㈱シンクロ・フード 代表取締役（創業者）藤代 真一氏 1997年東京理科大卒, 1999年東工大修士物質科学創造専攻, 2003年創業	飲食店の出店・運営に関わる業務をインターネットを活用して効率化する新しいビジネスモデルを企画・実現している。飲食店.comの会員は累計で10万人に近づいている。2016年9月東証マザーズ上場。
㈱クロイツ 代表取締役会長（創業者）中田 周一氏 1970年生産機械卒 1989年創業	「バリ取りの全てを工学する」を開発理念とし、バリ取りロボットおよび刃具を独自開発して事業を拡大した。この分野の圧倒的な世界トップメーカーとして一層の発展が期待される。
㈱EME 代表取締役（創業者）今城 康隆氏 1963年機械卒 1996年東芝退職後創業	真空ミキサーのパイオニア。独自の自転/公転, 真空攪拌脱泡並びにシリンジ充填機を開発し国内外の液晶メーカーに独占的に納入。対象分野を液晶からLED, 太陽電池, 燃料電池, 医療分野等に拡大中。



2. 『蔵前特別賞』受賞記念講演 1

「東工大で育ちゆく世界一の科学・技術・芸術の精華を展示する喜び」

東工大博物館特命教授 道家 達将氏



東工大博物館特命教授

道家 達将氏

1974（昭和49）年4月、川上正光学長のもとで、早くも創立100年記念の準備会が設けられ、記念に何を

行うか議論が始まりました。その中で、正に本学での「科学・技術の教育・研究百年」の業績の展示・保存を中心とする「百年記念館」を建設し、ここで現在における科学・技術の最先端の所産も併せて展示しようという案が提示されました。創立100年にあたる1981年には「募金の提起」と

共に、記念物として何を集め、どのように展示するか、具体的準備が吉見吉昭教授を委員長として始まり、記念館の建築は平井聖教授が、展示については小生が担当委員をすることになりました。展示物品の仮置場としては、経理課から改修予定の広い部屋を借用しました。展示予定品にはトラックで運ぶ大きな機械類もありました。展示品の決定については、各科の代表委員の会議で何度も議論を重ねました。百年記念館(現東工大博物館)は、1987年11月3日に完成し、その展示・収蔵品の数は研究成果も工芸品の数も年と共に増加していきつつあります。その概略は次の通りです。

1. 陶磁器・工芸関係；ワグネル博士の「旭焼」、平野耕輔の「陶磁器コレクション」、板谷波山、中田清次、河井寛次郎、濱田庄司、島岡達三、辻常陸、加藤鈔、田山精一、沼田一雅、村田浩の陶芸作品。各務鑛三の「クリスタルガラス」作品。芹澤銈介の型絵染和紙等。
2. 文書；手島精一、正木退蔵、和田小六らの文書
3. 電気・通信；古賀逸策の水晶振動子・水晶時計、森田清・西巻正郎のマイクロ波・ミリ波マグネトロン、高柳健次郎の電子式テレビジョン、末松安晴の光ファイバ通信用単一モード半導体レーザーに関する先導的研究、伊賀健一の面発光レーザーの創案と先駆的研究

4. 機械・制御；中田孝の転位歯車、森政弘の6本足ロボット「ガウォーク」、梅谷陽二のヘビ型ロボット、広瀬茂男のロボット
5. 化学；加藤与五郎と武井武のフェライト、星野敏雄・佐藤徹雄のビタミンB₂とウルソの工業的合成、神原周の合成繊維シンセン(後のカシミロン)、白川英樹の導電性高分子開発、田中郁三の光化学研究
6. 建築；谷口吉郎、清家清、篠原一男の建築関係資料
7. ホログラフィー；辻内順平の医療診断用立体視システム、石井勢津子のホログラム
8. 歴史的な大型機械；スターリングエンジン・英国製最初期発電機・織機群
9. 生命；大隅良典の「オートファジー」



中澤三知彦氏から寄贈された島岡達三作品：中央奥の大壺のみ島岡氏寄贈

3. 『蔵前ベンチャー賞』受賞記念講演 2

「テクノロジーとノウハウと人間力で、社会を変えるベンチャー」

株式会社Sound-F 代表取締役社長 土屋 清美氏



株式会社Sound-F

代表取締役社長

土屋 清美氏

1. はじめに

<Sound-F会社概要>

2006年6月設立。現在第11

期目。事業部構成は、金融ソリューション事業部(ホ

ールセールとリテール)及びREITソリューション事業部の2事業部制。最近では、FinTech(ファイナンスとテクノロジーの融合)の流れで、スマートフォンでの金融サービスやブロックチェーンの技術を使った新しいサービスを創造している。

2. FinTechビジネスのご紹介

<STOCK POINT> 株式に連動するポイントを

配布して、企業マーケティングを推進しつつ、日本政府が掲げている「貯蓄から投資へ」の推進に貢献するビジネスを行う。ビジネス特許取得済。平成29年4月にサービススタート予定。まずは誰でも知っているナショナルクライアント企業数社（目標10社）でスタート予定。

<NeCoban> 静岡県富士市で静岡銀行様、マネックスホールディングス様に協賛いただきスタート。地域お買い物値引きポイント。ブロックチェーンの実証例となる。地域創生に貢献する仕組みとして日本の他の自治体へも積極的に広げていく予定。

<金融最先端技術で物流やエネルギーの世界を変えていく取組み> 社会実証実験に向けてのIT分

野での参画。今まで出来ていなかったことが、簡単に出来るようになり、社会生活にも影響を与えるような取組み。

3. ベンチャー賞を頂いて

大変光栄です。また、ここまでやって来れたのは、蔵前人脈があったからこそで、あらためて大学、先輩方には感謝申し上げます。

私が考えるベンチャーとは、今までに無いイノベーションを通じ、人々の生活と世の中を変える事だと考えます。そして、Sound-Fも10年かかって、やっとこのステージに來たと感じています。今後はさらに大きく発展します。ぜひこの先のSound-FそしてSTOCK POINTビジネスを見守り、サポートの程お願い致します。

4. 『蔵前ベンチャー賞』受賞記念講演3 「当社の概要と成長戦略」

株式会社シンクロ・フード 代表取締役 藤代 真一氏



株式会社シンクロ・フード
代表取締役 藤代 真一氏

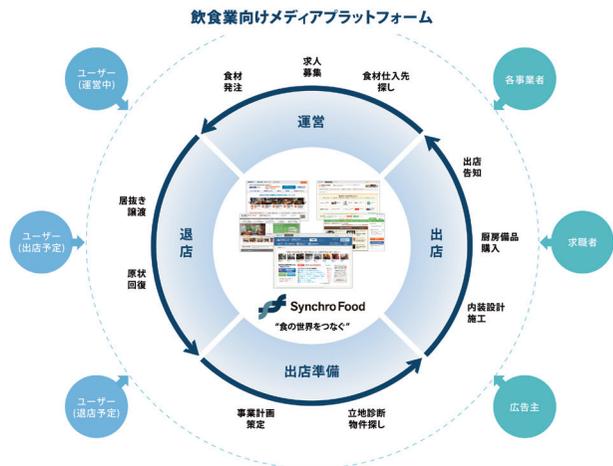
当社は飲食業向けメディアプラットフォームを運営しています。2003年に設立し段階的にメディアを立上げています。「食の世界をつなぐ」という言葉を経営理念として掲げており、飲食業界に関わる様々な人々を繋いでいきたいと考えています。飲食業界の労働生産性は低く、テクノロジーの力を活用することで労働生産性を向上させられると考えております。

当社は出店準備・出店・運営・閉店という全てのフェーズにおいてサービスを展開しています。このように一貫通貫の飲食業向けメディアプラットフォームを展開する企業は当社のみであり、これこそが当社のビジネスモデルの強みであり特徴です。飲食業向けメディアプラットフォームは順調に拡大しており、ユーザー数は10万件を超え、業績は設立以来13期連続の増収増益を実現しています。

当社のビジネスモデルは独自性、収益性、安定性という3つの強みがあります。独自性とは一貫通貫のプラットフォームであり、トータルにサービス提供するがゆえのユーザー

の回遊効果を得られることです。収益性とは、多様なチャンネルからユーザーが流入することでユーザー獲得コストを抑制できることです。安定性とは、飲食店ユーザーだけでなく、関連する事業者からも収益を得られることです。

今後は、「新サービス企画・開発」「継続的なサービス改善」「サービス展開・エリア拡大」、3つの戦略を推進し成長を目指していきます。当社が継続的に成長及びサービスを提供し続けることで、飲食業界全体のさらなる発展、成長に貢献していきたいと考えています。



5. 『蔵前ベンチャー賞』受賞記念講演4 「バリ取り30年」

株式会社クロイツ 代表取締役会長 中田 周一氏



株式会社クロイツ
代表取締役会長

中田 周一氏

2019年にラグビーW杯
が日本で開催されます。

その時まで現役を続けよう
と思っていますが、今回のベンチャー賞を頂く
ことになり、益々の励みになると喜んでおります。

バリ取りロボットのビジネスを始めて、30年
が経ちました。バリ取りは工作機械と比べると花
形には決してなれませんが技術的には大変高度な
分野です。一時期、労力との置換えとして汎用ロ
ボットにやらせることがはりましたが成功例は
多くありません。その理由はバリ取り技術が未熟
だったからです。私はこの30年間、「全てのバリ
取りを工学する」(engineering all the deburring)
を開発理念にバリ取り技術の開発に専心してきま
した。工場のバリ取り工程の自動化に貢献でき
たと思っています。いろいろなツール、工法を発
明しそして実用化し、バリ取りのクロイツとして、

海外にも発信できて一定の評価を得たと自負して
おります。

最近の動きとして工作機械の進化が一段と進ん
でおり高機能化しています。バリ取りを工程内で
完結させようとのニーズがさらに高まってきてい
ます。例えば歯車の加工はスカイピングマシンと
いう新技術に移ろうとしています。素材からブラ
ンク加工、歯切り加工まで一気に行えますがそ
こで困っているのが歯切り加工により発生するバリ
です。クロイツはかねてより開発していたエッジ
スクレイピングの技術をこのスカイピングマシン
に搭載、適用することに取組んでいます。蛇足で
すが今や高速回転工具が加工の世界を席卷してい
ますが実はバリを大量生産しているのです。古来
よりあるスクレイピングの技は最もバリの出にくい
工法で、この古典技術を上手に進化させたいも
のです。

本日はこのエッジスクレイピングの実例を紹介
します。ものづくりの進化発展の参考になれば幸
いです。

6. 『蔵前ベンチャー賞』受賞記念講演5 「業界に先駆けて真空攪拌脱泡ミキサーを事業化」

株式会社EME 代表取締役 今城 康隆氏

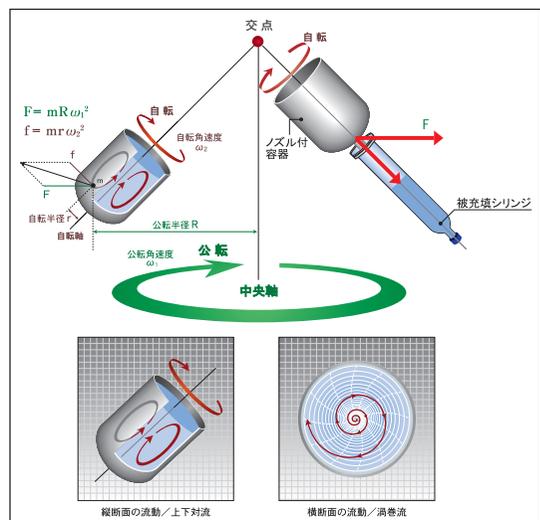


株式会社EME
代表取締役 今城 康隆氏

1963年東工大(機械)
を卒業後、(株)東芝で設計・
開発や海外勤務・重電や部
品材料の事業企画部門に従
事しました。

定年退職後、1996年に(株)EME
(Environment, Materials & Electronics) を設立
しました。

半導体に関するムーアの法則と同様に、基板に
搭載される電子部品やそれを構成する素材もい
ずれ微細化が進むと考え、真空ミキサーを開発
しました。本製品は、容器に材料を入れ(右図)真
空中で高度に自転・公転独立可変速駆動すること
で材料を均一に攪拌・分散・脱泡し、さらに遠心力



を利用してシリンジに充填するものです。電子部品や高機能素材の製造分野で使用されています。

2000年に液晶パネルの革命的大量生産方式ともいべき「液晶滴下方式」と出会い、この技術の一翼を担いました。これにより「第8回アドバンストディスプレイオブザイヤー2003」の製造部門で優秀賞を受賞しました。2001年から日韓台で投資合戦が展開され、当社もこの分野で地位を確立し経営基盤を確立できました。現在は、液晶からその他分野に次第にシフトしています。

スマホ用電子部品やその構成部材、車載関連（燃料電池やEV部材）、ヘルスケア関連に展開しています。

以上を要約すると、サラリーマン時代の体験が重要と思うが、①ニッチなテーマの発掘（感と勘）②自社開発目標を作り上げる③ビッグチャンスを見逃さないこと④ファミリー経営（よき従業員、先輩、ディーラー、外注先）⑤家族の協力は不可欠だと思います。

7. 交流会（コラボレーションルーム）



受賞者を交えた交流会を実施した。交流会参加者88名（うち学生9名）。

8. 感想

- ・ノーベル賞受賞の大隅先生に蔵前特別賞を受賞して頂いたことは、大変誇らしいことです。
- ・道家先生は東工大の優れた実績と良き伝統を後進に伝えることに大いに貢献されました。
- ・Sound-F, シンクロ・フードの2社はIT技術を活用して、まったく新しいビジネスモデルに挑戦し、次々と実績を上げています。クロイツ、EMEの2社は自社の技術開発力によって、その分野で世界一の、オンリーワン企業に育てました。ものづくりベンチャーの模範だと思いま

す。

今回のベンチャー賞4社はバラエティに富み、いずれも個性的です。

- ・蔵前ベンチャー賞がベンチャー・中小企業の革新、活性化の一助となることを、また蔵前特別賞により、東工大および東工大卒業生の多方面での活躍や社会貢献を多数の方に知って頂く機会になることを期待しています。今回の受賞者・受賞企業はその主旨にふさわしいものであったと思います。